

欧州景気概況(2021年9月)

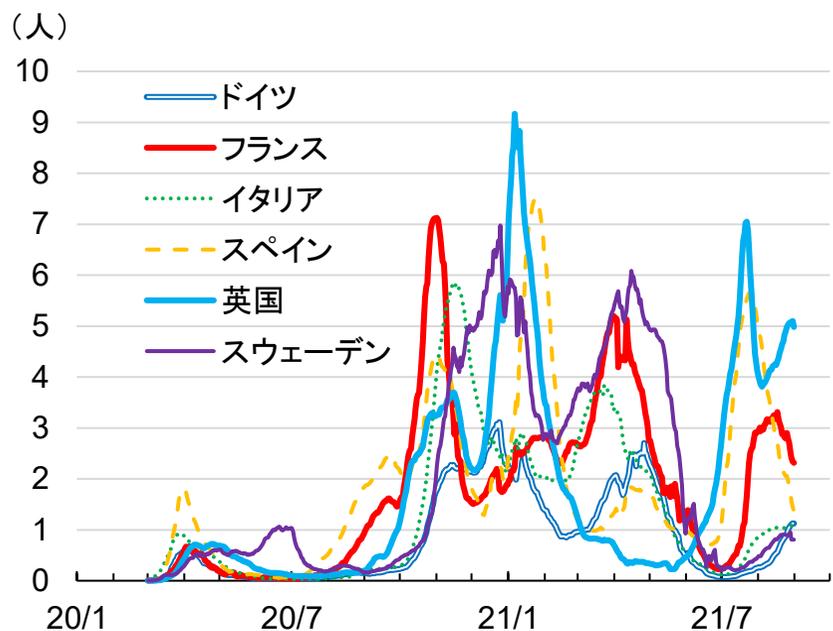
2021年9月2日

調査部 副主任研究員 土田陽介

新型コロナウイルスの感染状況

欧州でもインド由来の変異株(デルタ株)が蔓延、感染は振幅を伴いながらも再び拡大傾向にある。しかし欧州各国は基本的に移動の制限を伴う行動制限を強化せず、医療のひっ迫度合いに応じて屋外でのマスク着用義務が再び課される(例:イタリア南部シチリア島)などの強化にとどめている。

人口一人当たりの新規感染者数



(注) 7日間移動平均

(年、月)

(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)及び英国民保健サービス(NHS)、国際保健機関(WHO)

主要国の行動制限の概要

国名	内容
ドイツ	6月30日で「緊急ブレーキ」措置が失効、各州で指標に応じた行動規制緩和を実施。
フランス	6月17日にマスク着用義務撤廃(除くイル・ド・フランス)。6月20日に夜間外出制限を撤廃。一部の国を除き入国が自由(日本人も出入国が自由、ただしワクチン接種証明か陰性証明書などが必要)。
イタリア	夜間外出禁止を撤廃。州を跨ぐ移動の制限も撤廃。各種商店・娯楽施設の再開(ただしダンスホール、ディスコは休止を継続)。
英国	イングランドが7月19日に行動制限の大部分を緩和。8月16日に隔離規制を緩和予定。スコットランドは8月9日に行動制限の全面解除を目指す。

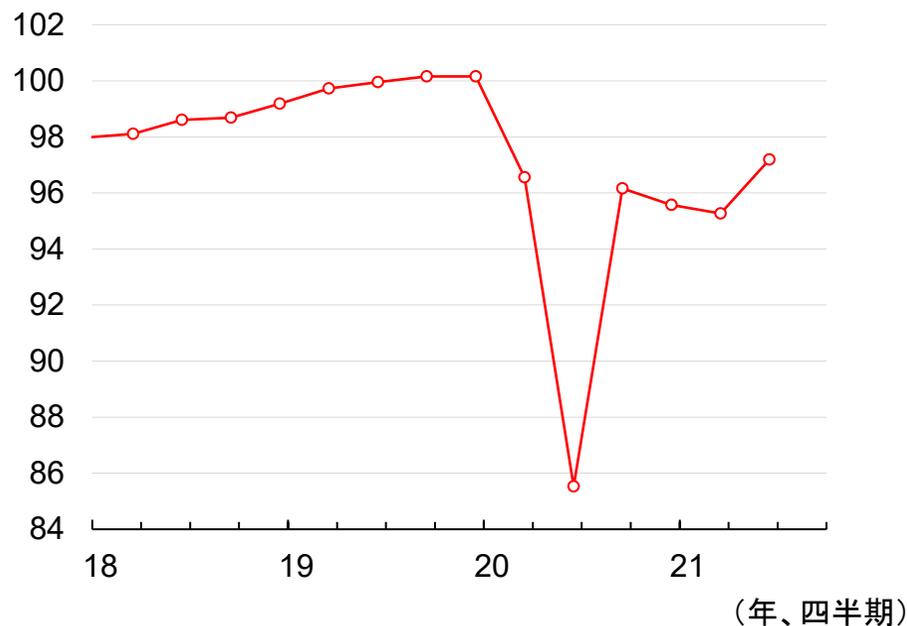
(出所) 各種報道

ユーロ圏景気概況① 景気は回復している

ユーロ圏の2021年4-6月期の実質GDP(改定値)は前期比+2.0%と3期ぶりに増加に転じ、景気後退を脱却した。一方で最新8月の景況感指数は117.5と1月以来の低下に転じた。消費者信頼感指数が2ヶ月連続で低下し、製造業景況感指数も2020年11月以来の低下に転じるなど、回復の動きが一服した。

実質GDP

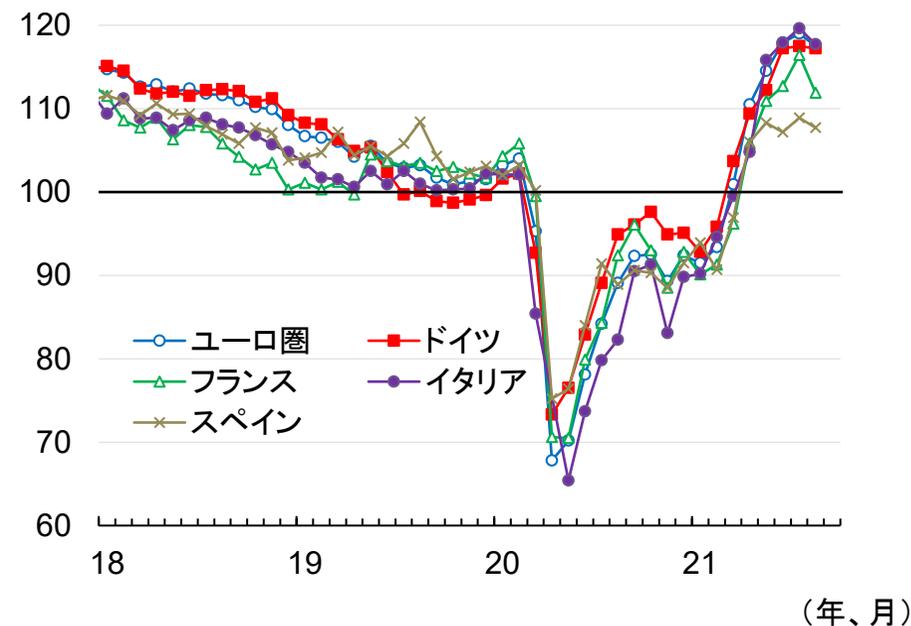
(2019年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)



(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は横ばい

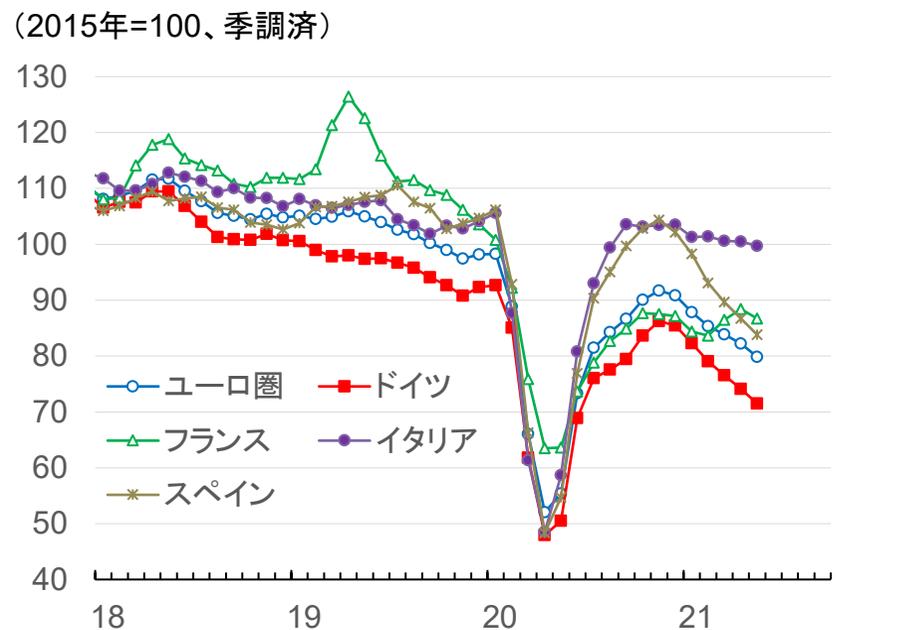
ユーロ圏の6月の鉱工業生産は前月比-0.3%と2ヶ月連続減少、均した動きは横ばいとなっている。鉱工業生産ベースで見た自動車生産台数は下振れしており、世界的な半導体不足の影響を受けた自動車の不調が生産全体の重荷となっていることが分かる。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

自動車生産台数(鉱工業生産ベース)



(注) 3ヶ月後方移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は拡大している

ユーロ圏の6月の小売数量は前月比+1.5%と2ヶ月連続で増加、均した動きも拡大している。一方で6月の新車販売台数は前月比-0.6%の年率847万台と、低位横ばいの状況が続いている。行動制限の緩和に伴い繰越需要が生じている一方で、半導体不足から新車の供給が停滞していることが、新車市場の不調につながっている模様。

小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均

(出所) ユーロスタット

新車販売台数



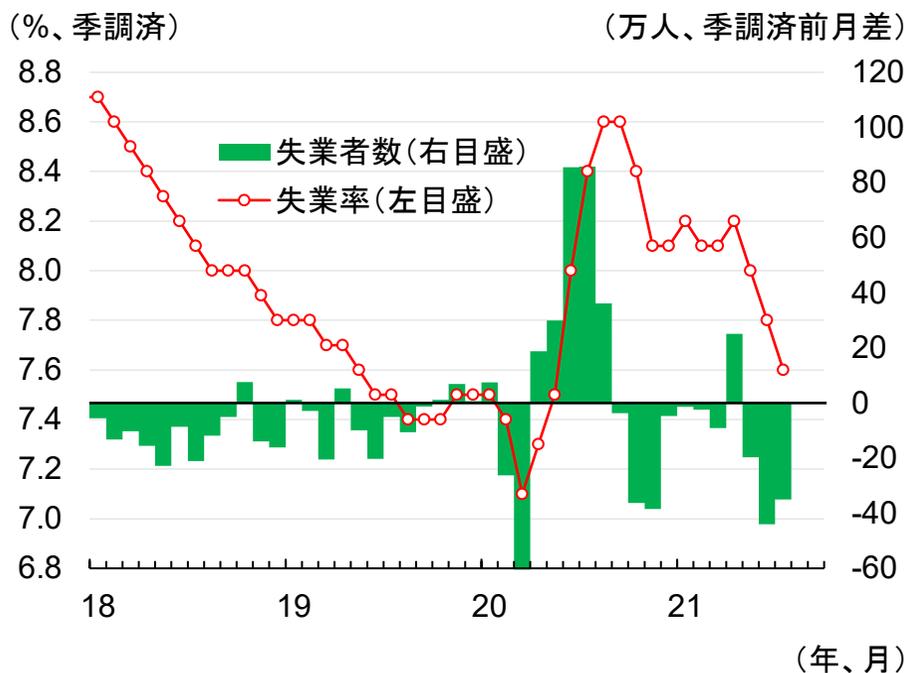
(注) 灰色線は3ヶ月移動平均

(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用情勢は緩やかに回復

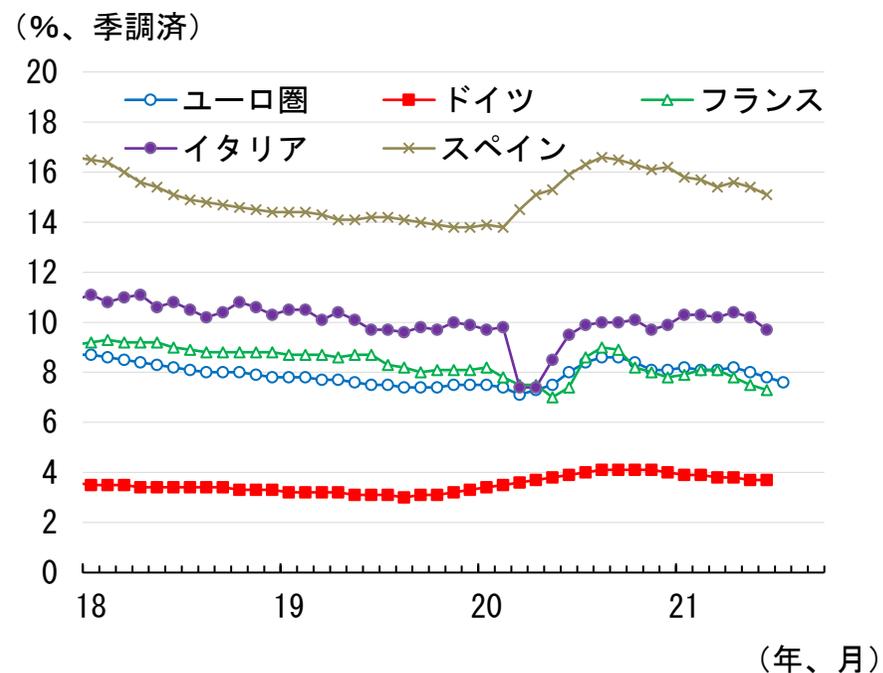
ユーロ圏の7月の雇用統計では、失業率が7.6%と3ヶ月連続で低下、失業者数は前月比35.0万人減と前月(同-44.0万人)から減少幅を縮小させたものの、雇用は緩やかに改善している。主要国別に失業率を見ると、各国とも緩やかな低下基調を保っているが、ドイツでは下げ止まりの動きもみられる。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

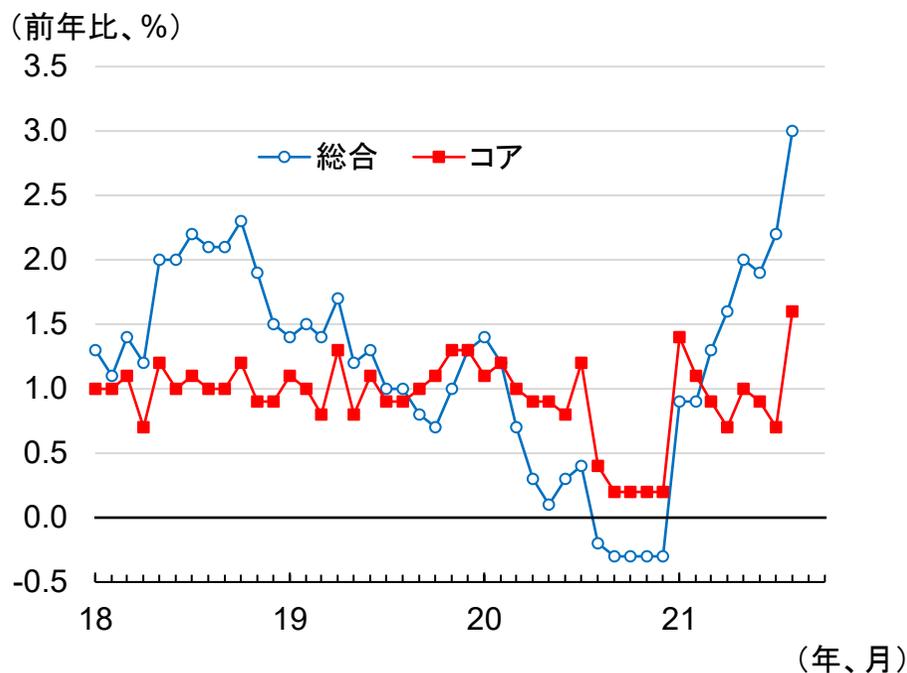


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ 物価はインフレが加速している

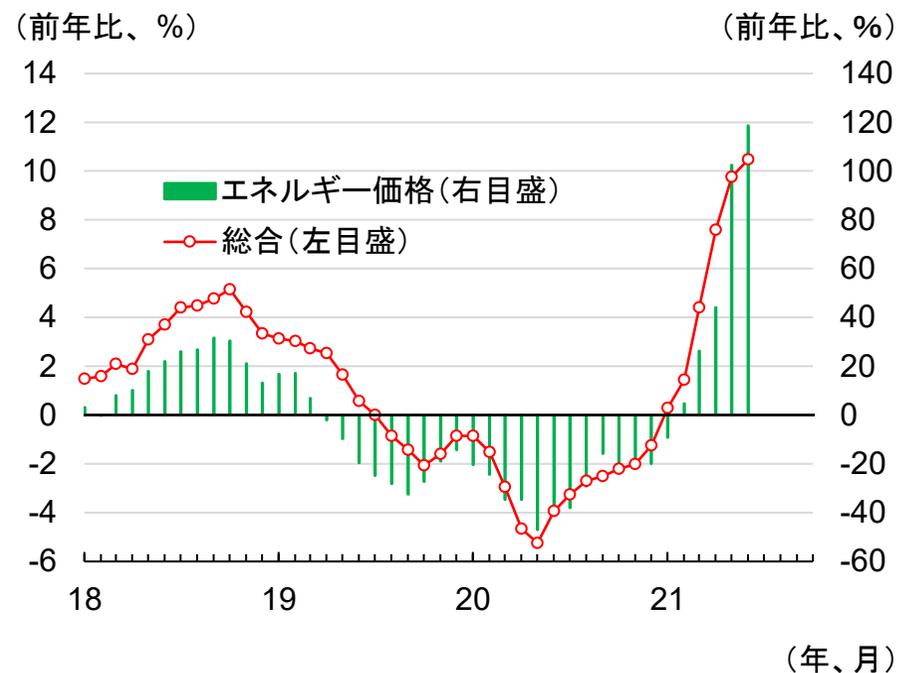
ユーロ圏の8月の消費者物価(速報値)は前年比+3.0%と上昇が一段と加速、10年ぶりの高水準となった。先行指標である生産者物価は6月時点で前年比+10.5%と、エネルギー価格の上昇が鮮明であることから、伸び幅の拡大が続いている。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価



(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECB内でPEPP見直しの機運が高まる

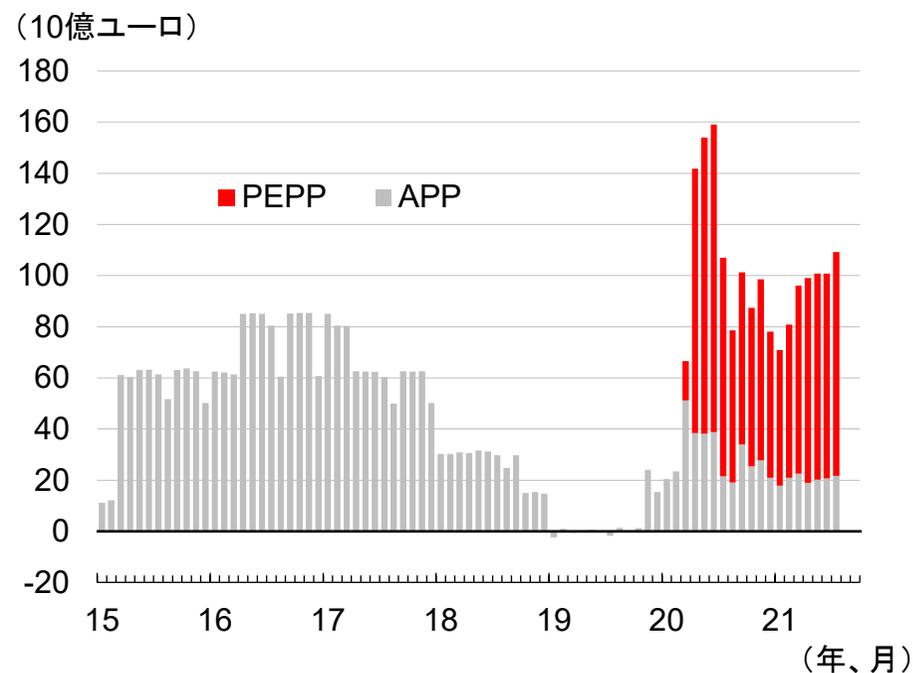
8月の消費者物価が前年比+3.0%と10年ぶりの高水準となり、ECBの物価目標(2.0%)を大幅に超えた。先行指標である生産者物価の伸びも鮮明であることから、ホルツマン・オーストリア中銀総裁がパンデミック緊急購入プログラム(PEPP)の縮小開始を呼びかけるなど、ECB内で金融緩和を見直す機運が高まっている。次回理事会は9月9日を予定。

ECBの金融緩和パッケージ

ECBの2020年12月理事会での決定の概要	
政策金利の据え置き	主要政策金利を既往の年0.00%に、また貸出金利を年0.25%に、預金金利を年-0.50%にそれぞれ据え置き。
資産購入策の強化	危機対応策であるパンデミック緊急対応プログラム(PEPP)での資産購入額を5,000億ユーロ増額して総額1兆8,500億ユーロに拡大。また期間を9ヶ月延ばして22年3月まで延長。再投資の期間も少なくとも23年末まで1年延長。 既往の資産購入プログラム(APP)は月額200億ユーロでの購入をオープンエンド型で継続。
資金供給策の強化	危機対応策であるパンデミック緊急リファイナンスオペ(PETLRO)を21年に4回追加 預金金利(現在▲0.50%)をさらに0.50%ポイント割り引いた水準(現状▲1.00%)で行う期間3年の資金供給策(TLTRO3)は22年6月まで期間延長。

(出所)欧州中央銀行(ECB)

資産購入の推移

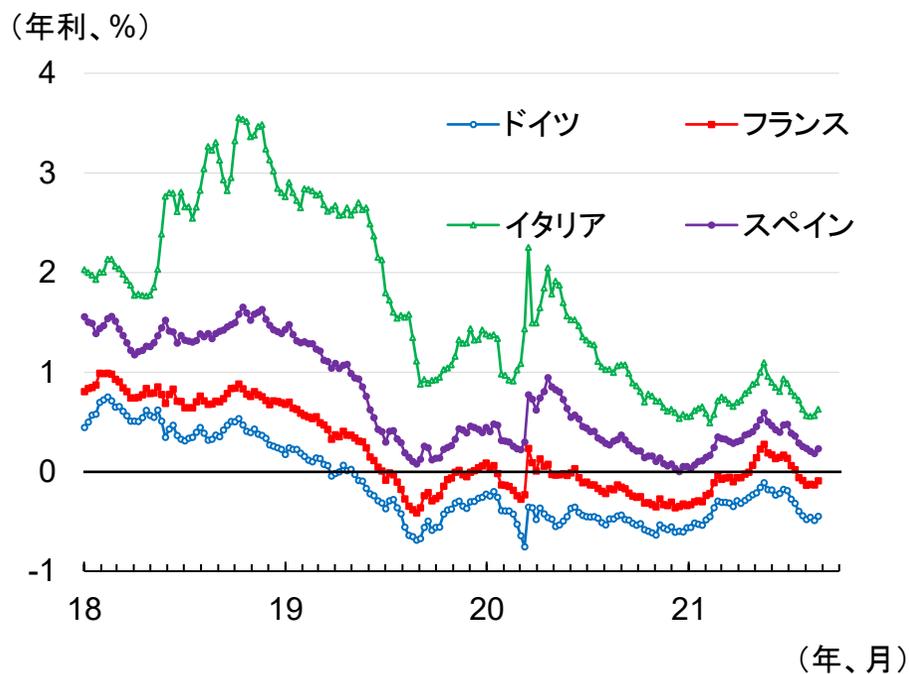


(出所)ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は上昇

8月のユーロ圏の長期金利は上昇した。インフレの加速を受けてECBが近いうちにPEPPの縮小を図るとの観測から、各国の長期金利は上昇した。一方で8月のユーロ圏の株価は上昇した。ECBのPEPP縮小観測が高まったものの、好決算への期待が相場の上昇をけん引した。

長期金利



(出所)ECB

株価(Eurostoxx50)

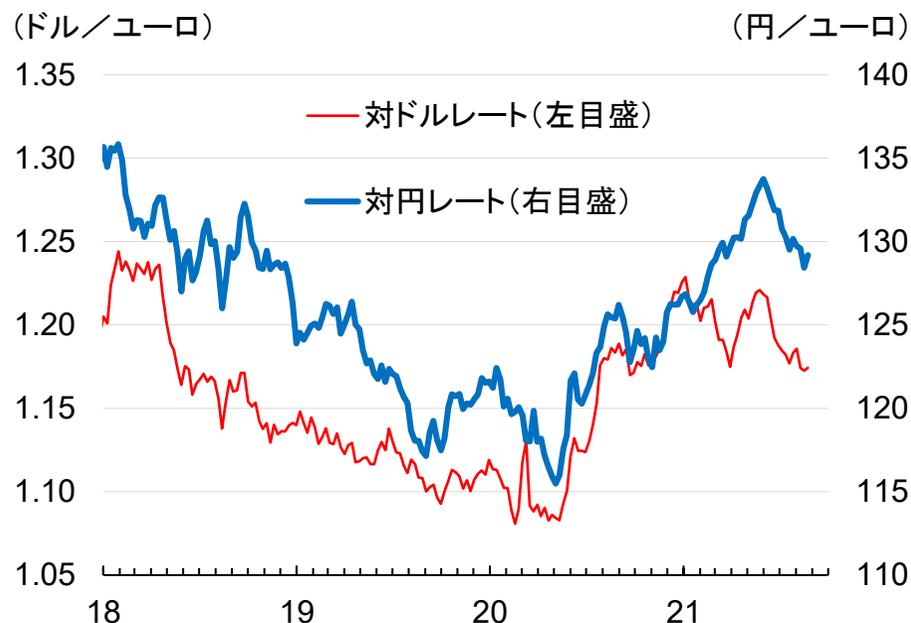


(出所)STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ 対ドルではユーロ安、対円では横ばい

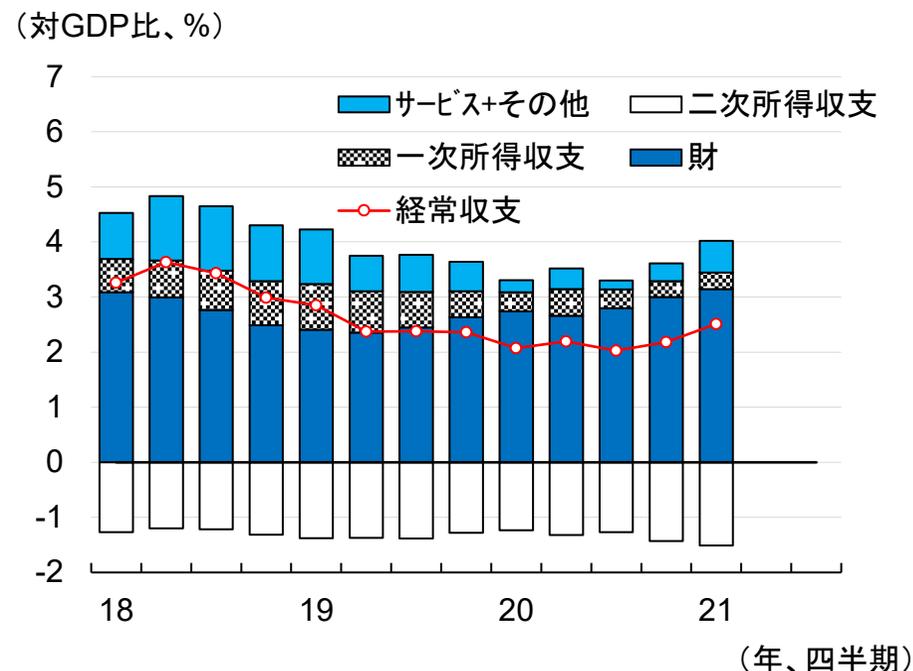
8月のユーロ相場は対ドルでユーロ安、対円では横ばいとなった。対ドルでは、7月雇用統計をはじめとする米国の経済指標の内容が堅調であってことからドル買いが進み、ユーロ安となった。対円では材料に乏しい中で横ばいでの推移となった。

ユーロ相場



(注) 週次レート
(出所) ECB

国際収支



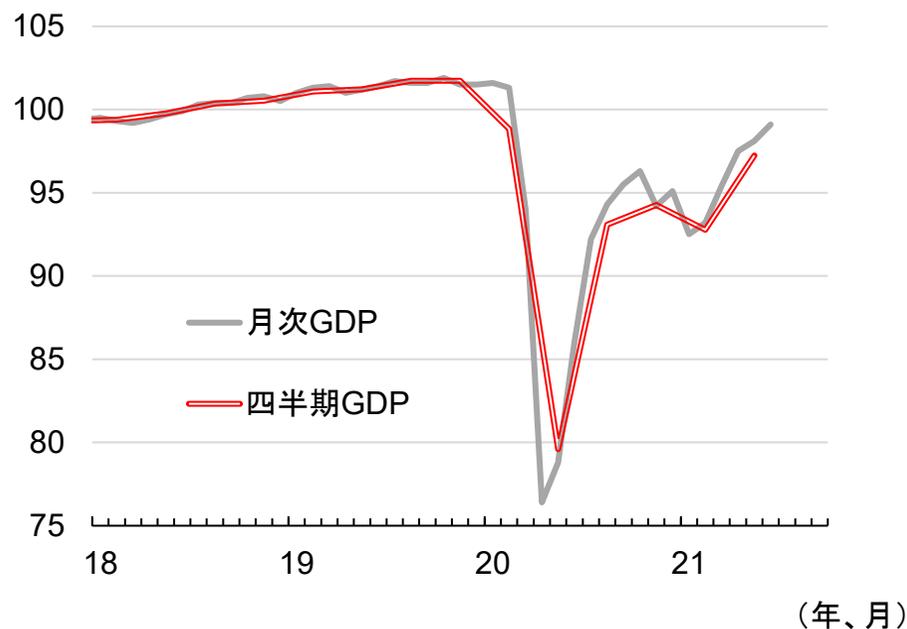
(出所) ECB

英国景気概況① 景気は回復している

英国の2021年4-6月期の実質GDPは前期比+4.8%と再びプラス成長に服した。個人消費や政府支出が景気回復をけん引した。産業別にはサービス業が顕著に回復、景気をリードした。英国では行動制限が全面的に緩和されたことから、7-9月期も景気は堅調な回復を維持すると予想される。

実質GDP

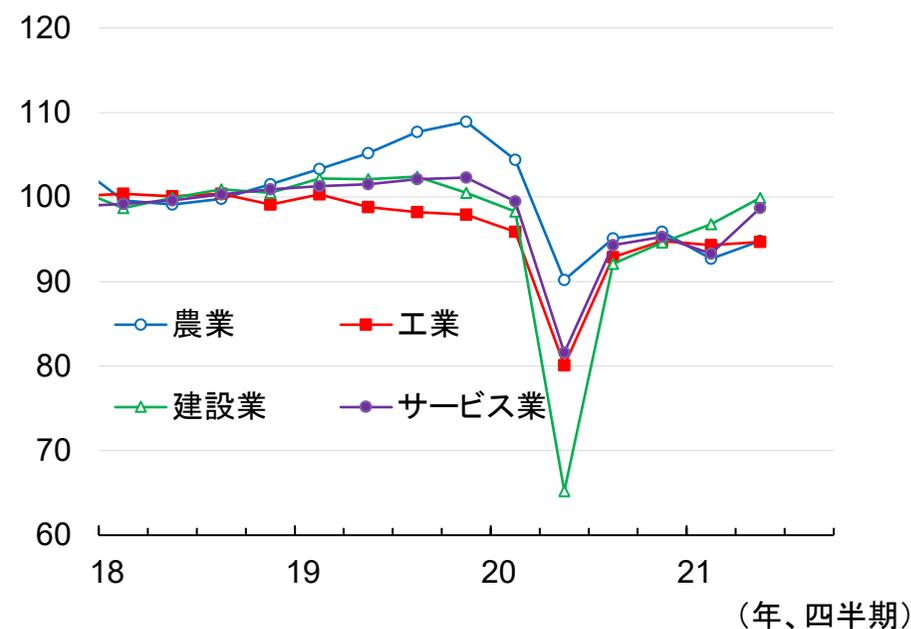
(2018年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

実質GVA(粗付加価値)

(2016年=100、季調済)

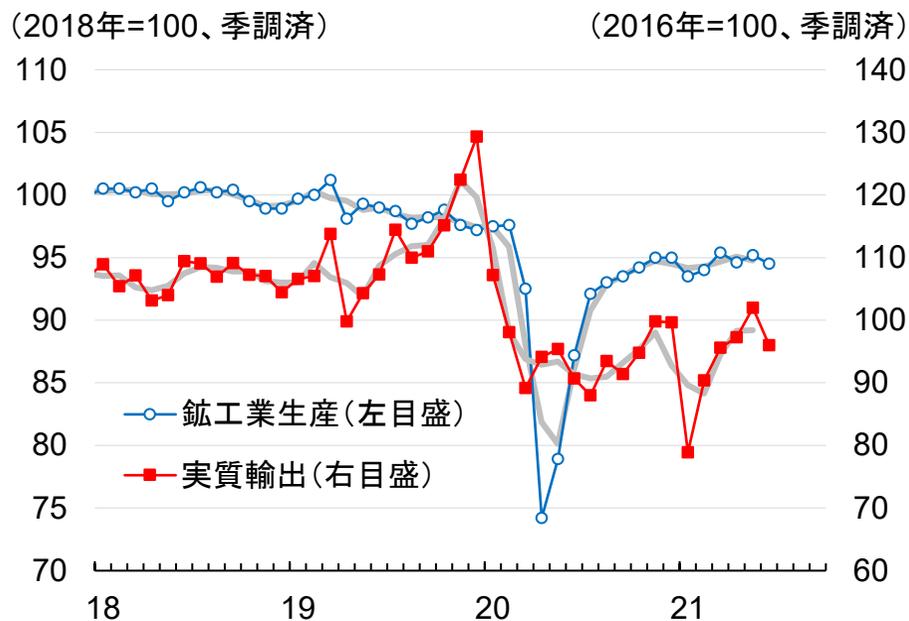


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は横ばい

英国の6月の鉱工業生産は前月比-0.7%と再び減少、均した動きは横ばいとなっている。一方で、同月の実質輸出は同-5.9%と減少に転じ、トレンドは頭打ちとなった。一方で、6月のサービス生産は前月比+1.5%と5月(同+0.6%)から増勢が加速、堅調な回復を見せている。

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (年、月)
(出所)ONS

サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (年、月)
(出所)ONS

英国景気概況③ 消費は拡大が一服

英国の7月の小売数量(除く石油)は前月比-2.4%と再び減少、均した動きも下振れした。また同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+28.0%の18.6万台と3ヶ月連続で伸び率が低下した。前年比では引き続き高い伸び率を記録しているが、英国でも半導体不足の影響で新車の供給が停滞している模様。

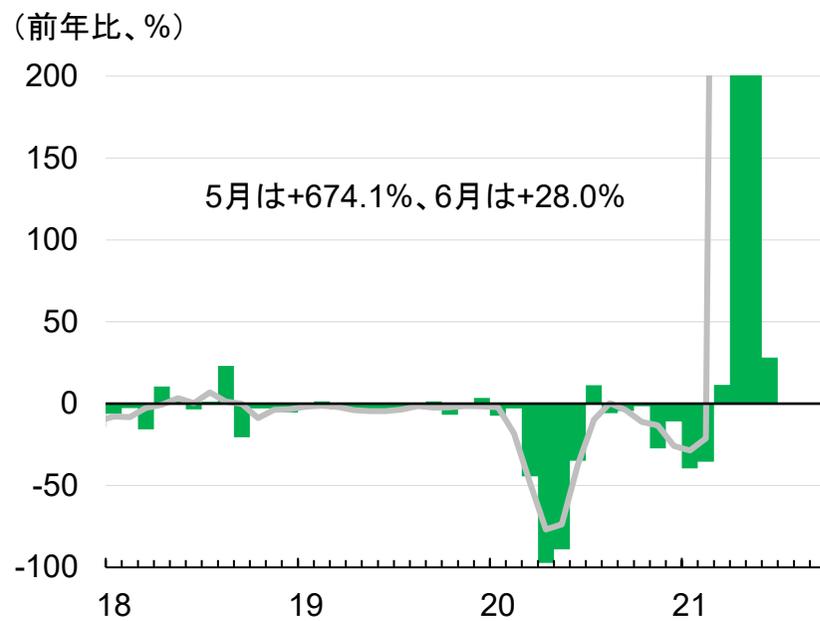
小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

(年、月)

新車販売台数(乗用車)



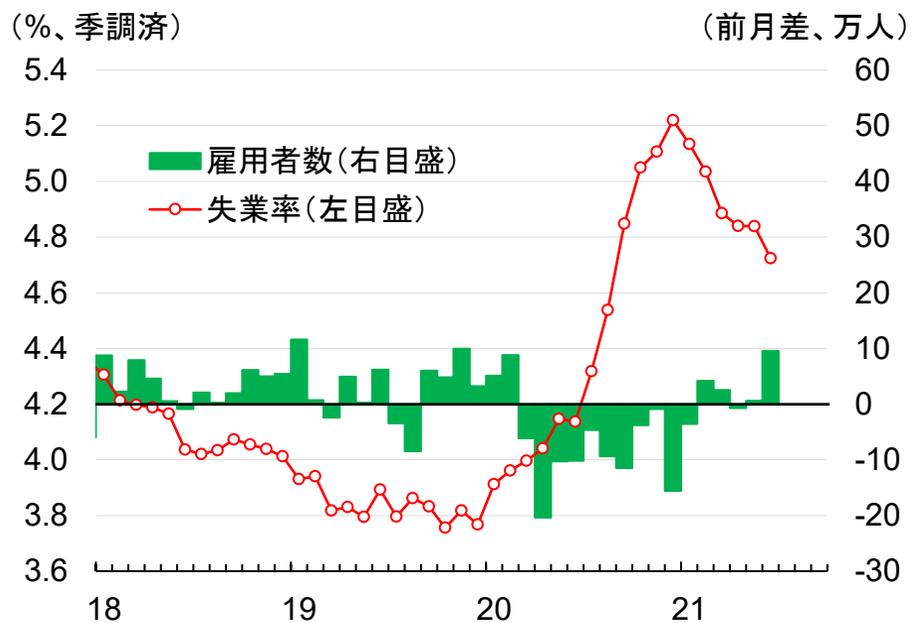
(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

(年、月)

英国景気概況④ 雇用は改善が進む

英国の6月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)は、失業率が4.7%に低下、雇用者数も前月比+9.6万人に増加するなど、雇用は改善が進んだ。一方で、平均労働時間は31.0時間と3ヶ月連続に増加した。

雇用統計

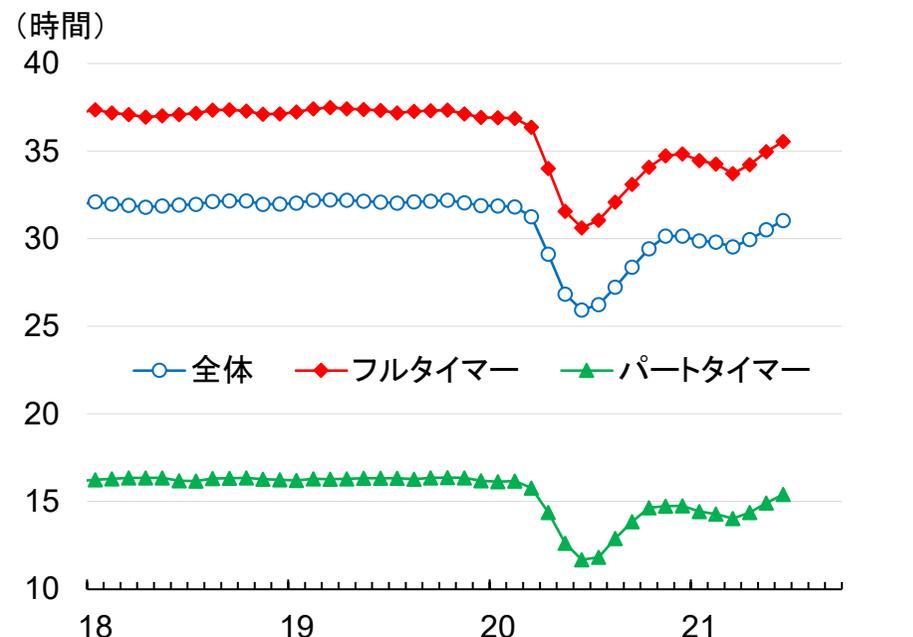


(注) 3ヶ月間の平均値

(出所)ONS

(年、月)

平均労働時間



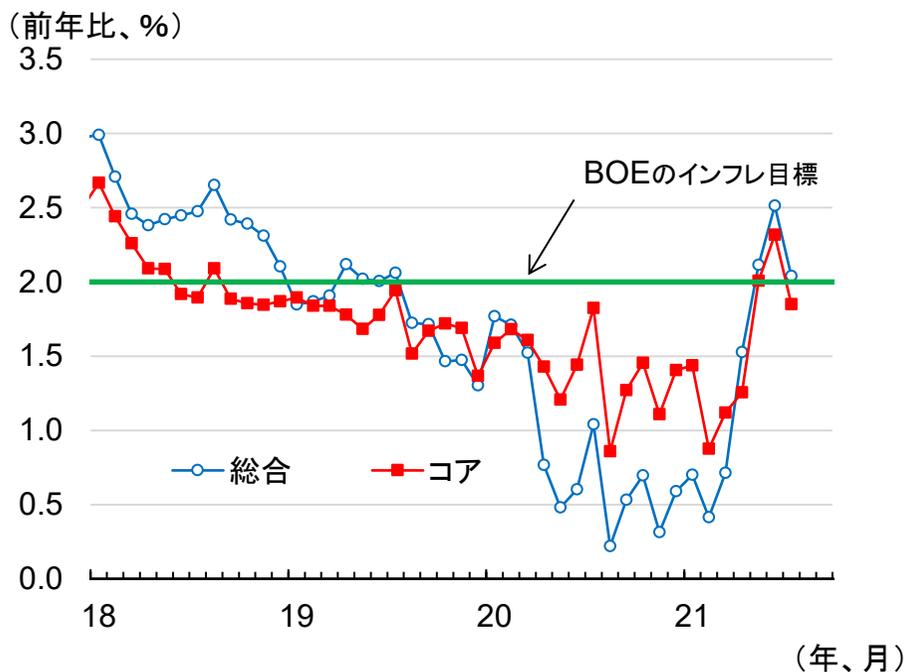
(出所)ONS

(年、月)

英国景気概況⑤ 物価はインフレ加速が一服

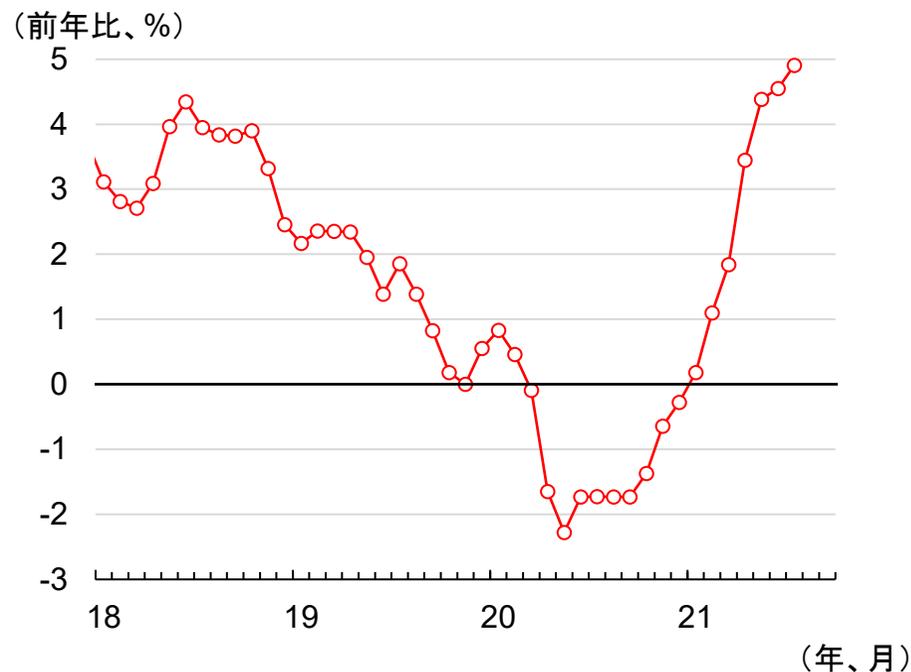
英国の7月の消費者物価は総合指数が前年比+2.0%と伸び幅の拡大が一服、イングランド銀行(BOE)のインフレ目標近傍にある。一方、先行指標となる同月の生産者物価は同+4.9とプラス幅の拡大が続いており、先行きもインフレの加速が続くことを示唆している。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

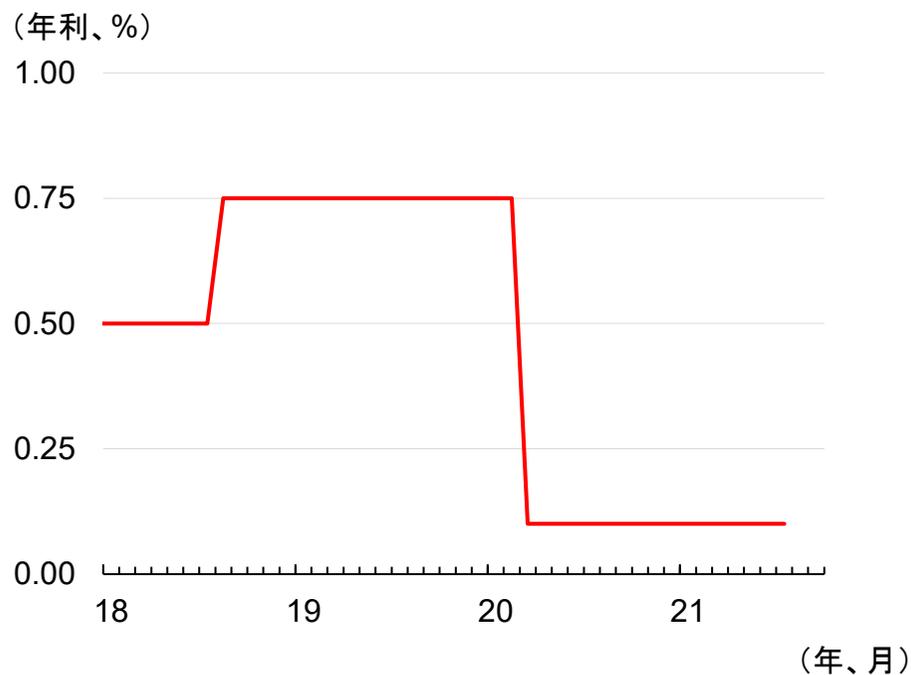


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは既往の金融緩和パッケージを維持

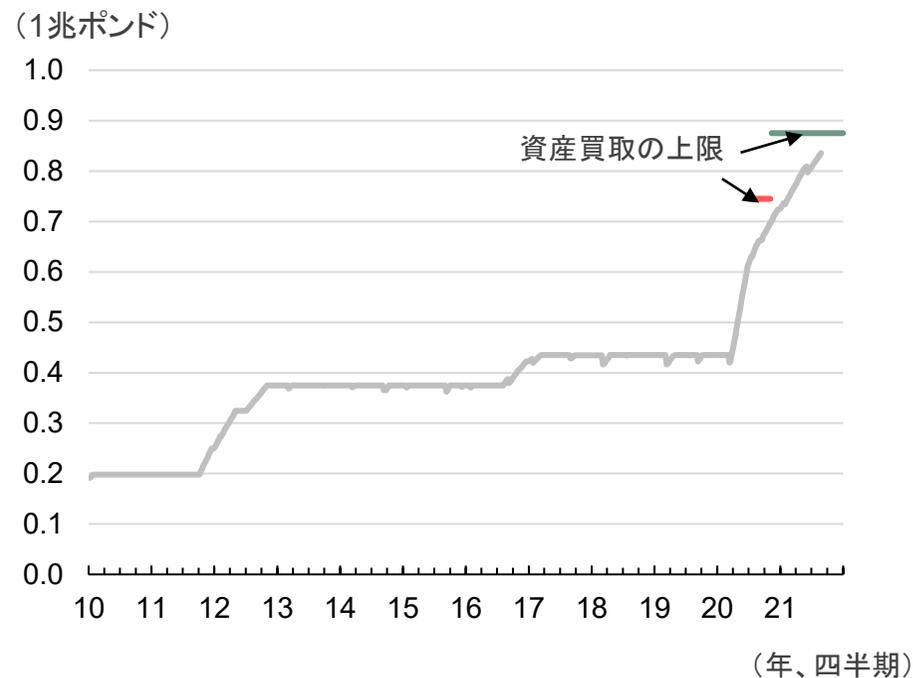
英中銀(BOE)は8月5日に金融政策委員会(MPC)を開催。政策金利を既往の0.1%に維持し、資産買取の上限も8,750億ポンドに据え置いた。BOEはインフレが想定よりも加速しているとし、年末までに4%に達するとの新たな見通しを示した。BOEは引き続き資産購入の段階的減額(テーパリング)に努め、緩和策の修正に取り組む方針。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高

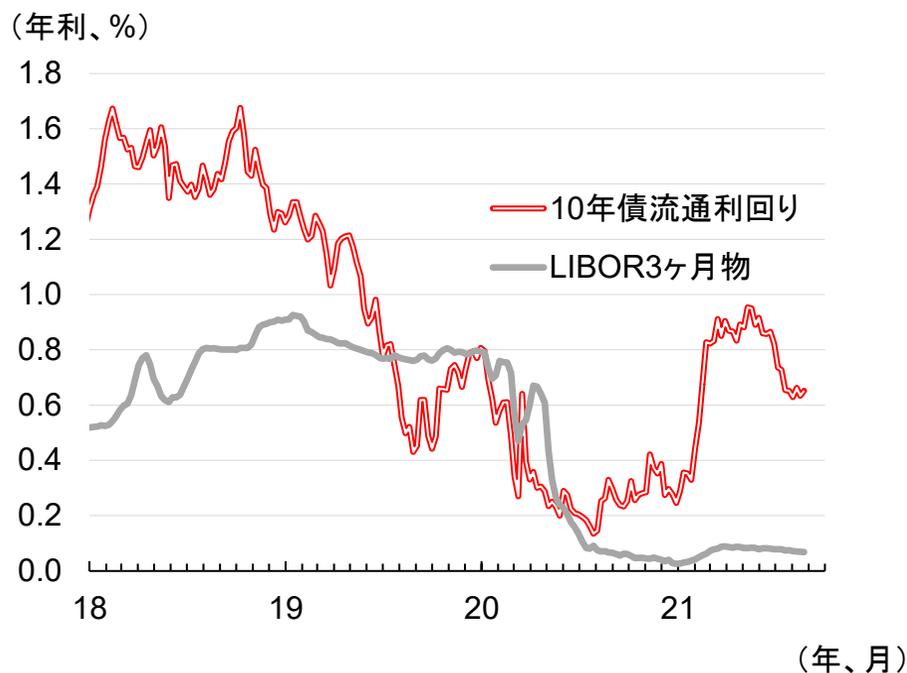


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 長期金利は上昇、株価は上昇

8月の英国の長期金利は上昇した。インフレの加速懸念やBOEのテーパリングが金利の上昇要因になった。一方で、8月の英国株価(FT100指数)は上昇した。BOEのテーパリングが続いているが、好決算への期待が相場をけん引した。

金利



(出所)BOE

株価(FT100指数)



(出所)BOE

英国景気概況⑧ 対ドルでポンド安、対円で横ばい

8月のポンド相場は対ドルでポンド安、対円で横ばいとなった。対ドルでは、米国の堅調な景気指標を受けてポンド売りドル買いが進んだ。一方、対円では材料に乏しい中で横ばいでの推移となった。

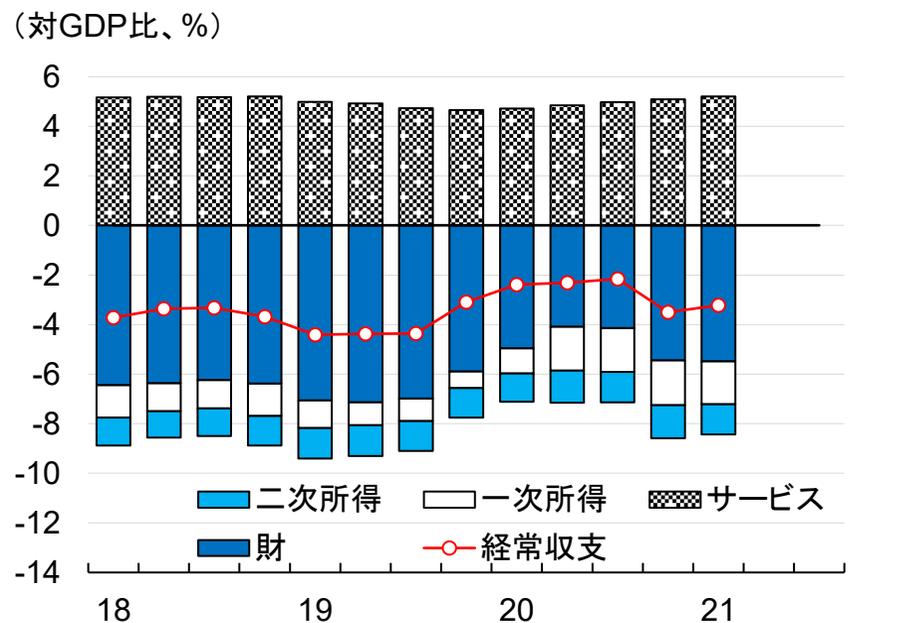
ポンド相場



(注)週次レート
(出所)BOE

(年、月)

国際収支



(出所)ONS

(年、四半期)

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください